報告書

花と昆虫の楽園キャンペーン

塩飽部隊プロジェクト PART4

2018年6月吉日
四国夢中人　代表　尾崎美恵

2017年から塩飽諸島の活性化を目的として始まった「塩飽部隊プロジェクト」。
これまで、京都大学の学生サークル農業交流ネットワーク(通称　農交ネット)と、香川県の四国夢中人、そして手島の自治会が共同で進めてきました。
第4回は五月晴れの抜けるような青空と海をバックに「花と昆虫の楽園キャンペーン」と題して開催しました。

実施概要

日　　程　平成30年4月28日～30日　(3日間)
1日目：タケノコ掘り、植栽準備、流しうどんの設置
2日目：タケノコ料理、花の苗の植栽
(キンセンカ約1200株、ラベンダー約400株、芝桜約150株)
3日目：学生による島民取材

場　　所　香川県丸亀市 塩飽諸島 手島
(人口約20名、平均年齢約80歳、周囲10.9km)

宿 泊 先　手島自然教育センター（旧手島小中学校）

協賛企業

農協食品(株)	鶏むね肉、手羽先　計24kg
JA香川県「讃さん広場」	レタス、キャベツ、アスパラガス、たまねぎ、しいたけ、鳴門金時 オリーブ牛1.5kg、讃岐もち豚2kg、おいで米30kg
(株)久保田麺業	うどん90人前、土産用うどん40人前、土産用ラーメンセット24人前
アサヒビール(株)四国総括本部	十六茶、ワンダコーヒー、バヤリースオレンジ、三ツ矢サイダー計120本
備讃フェリー㈱	臨時便増発
㈱スペースエム	

名義後援　香川県教育委員会

協　　力
・大学生宿泊費用(平成30年度丸亀市市民活動ステップアップ補助事業)
・フェリーでの苗往復運搬費(丸亀市緑のまちづくり協議会)
・レンタル移植スコップ50ヶ、鍬4本
・活動期間中の丸亀市営港パーキング無料開放

食材提供　獲れたて魚介類、有機栽培野菜・果物類、猪肉(島民より)
OS1 24本(広島診療所 白神悟志氏より)

活動の様子

1 花の苗の植栽

香川県立香川丸亀養護学校の園芸班から寄贈された花の苗。
キンセンカ、ラベンダー、芝桜の3種類2,000株を植えました。
花の肥料となるのは、2017年の活動の成果物である「竹チップ」。
花の成長を助けるとともに、竹の地産地消を実現します。

2 島の幸の収穫

竹林でのタケノコ掘り、山ではわらびの採集、そして海では漁業体験。そうして得た食材をいただくことで、島の豊かさをたっぷりと感じることができます。

3 昆虫の育成

竹チップの活用方法は肥料だけではありません。カブトムシなどの幼虫の生育環境としても最適。丸々と太った幼虫に、子どもたちは興味津々です。

参加者　計 96 名

京都大学・農業交流ネットワーク

農学部資源生物科学科	4回生	池田　茉史	さん
農学部食料・環境経済学科	4回生	岩男　　望	さん
農学部食料・環境経済学科	5回生	宮本　明徳	さん
農学部資源生物科学科	4回生	土井原沙織	さん
農学部食料・環境経済学科	3回生	中村　亮太	さん
法学部	2回生	谷垣　柚乃	さん
農学部食品生物科学科	2回生	岡田　紫苑	さん

学校関係者

丸亀市立小手島小学校	5年生1名
	教職員2名
香川県立香川丸亀養護学校	高等部3年生2名
	高等部2年生2名
	教職員8名、保護者3名

取材協力

読売新聞高松総局記者	浅田　真理 氏	
四国新聞西讃支社	渡辺　敏史 氏	
四電ビジネス(株)	三原　美香 氏	他4名
NHK高松放送局	川崎　理加 氏	他3名
NHK松山放送局	遠山　真由 氏	
OHK岡山放送(株)	津田美有希 氏	他2名

県外ボランティア

東京大学客員教授	大鹿　文明 氏
(株)新閃力代表	尾崎 えり子 氏
	ご家族3名
慶應大学病院秘書	尾崎 さゆり 氏
(一社)共同通信社／京都大学OB	尾崎　　純 氏
トヨタ自動車(株)	木村　友美 氏
三菱ケミカル(株)	玉井　貴大 氏
作家	広谷　鏡子 氏
外務省事務官	安田　聡志 氏

手島島民・出身者

手島自治会長	藤原　当正 氏
手島自然教育センター長	高田　正明 氏
島民	吉田　文二 氏
島民Iターン　(北海道)	蛯名　光男 氏
島民	大倉　政敏 氏
島民	尾崎　和敏 氏
島民	浜本　満雄 氏
丸亀市在住	近藤 りつよ 氏
丸亀市在住	藤原　　泉 氏
名古屋市在住	大島喜美子 氏
その他、周辺在住の手島出身者10名	

県内ボランティア

丸亀市在住	東　　由美 氏
丸亀市城南地区コミュニティ	五百森信幸 氏
	ご家族4名
(株)久保田麺業営業部長	倉田　茂幸 氏
	ご家族3名
百十四銀行	大西　紘司 氏
香川県交流推進部県産品振興課	荒井　理宏 氏
丸亀市本島正覚院副住職	三好　祥晃 氏
丸亀市本島在住漁師	芦内　弘法 氏
香川県議会史編さん室長	高山　桂一 氏
香川県企業立地推進課	土居　義昌 氏
香川県環境森林部みどり整備課	河野　幸彦 氏
	濱口　正幹 氏
主婦	木村久美子 氏
香川県立高校英語講師／YouTuber	Ian Lus　氏
日本電気(株)四国支社	松尾　達宏 氏
	高森　彩加 氏
	柳　　沙織 氏
	大島　康佑 氏
京都大学OB	岩澤　素子 氏
四国夢中人代表	尾崎　美恵

メディア実績

・読売新聞 「カブトムシ大きく育て」	5月11日掲載
・四国新聞 「丸亀手島に花の道を」	4月29日掲載
・NHK高松放送局 「四国おひるのクローバー」	5月10日放送
・NHK高松放送局 「ゆう6かがわ」	5月11日放送
・OHK岡山放送 「プライムニュース」	5月15日放送

インタビューを受ける大学生

参加者からのメッセージ

“不便な場”も“楽しい学び・交流の場”に

池田 茉史 さん
京都大学農学部資源生物科学科4回生／奈良県出身

今回の手島での活動で印象的だったのは、年齢・職業も全く異なる人たちが集まったことでした。手島は確かにいろいろな面で不便ではあります。ただ、多様な人間が集まれば、それぞれの知識や経験をお互いに共有し、共に考え、“不便な場”も“楽しい学びの場・交流の場”となり得るという新たな可能性を感じることができました。ただ、手島の良さは島に住む方たちや、自然の穏やかさにあると考えています。島の良さを知ってもらうという面では今回のような大規模な企画は必要ではありますが、島の方たちが平穏な島での生活を失ってしまうなら元も子もありません。今回のような企画で継続して人を呼び込み、ありのままの手島を愛してくれる人が増えていくことが重要だと思います。

何気ない風景こそが島の宝物

参加者の多さと多様さ

岩男 望 さん
京都大学農学部食料・環境経済学科4回生／神奈川県出身

今回、一番印象的だったのは参加者の多さでした。船から下りてきた大勢の参加者がセンターへ向かって歩いて行くのを後ろから見ていると、私が今まで知っていた手島ではないような感じがしました。たくさんの花の苗もあっという間に植えることができたように思います。新しく参加された方々と作業できたことができたことが嬉しく、また、島の方々をはじめ島外の参加者の方々の中にも活動を重ねるにつれ顔なじみの方が増えてきて、そのこともとても嬉しく思いました。一方で人数が増え、参加する動機もより様々になることで新しく出てくる課題もあると思います。それらに向き合いつつ、今後も関わり続けていきたいと強く思います。

作業を通じて仲良く笑い合える仲に

宮本 明徳 さん
京都大学農学部食料・環境経済学科5回生／広島県出身

子どもから大人まで協力し合った

私が手島を訪れるのは今回で二度目、前回よりもゆっくりと島を散策し、イベントを通して島の方々ともたくさん関わることができたので、手島の魅力をよりいっそう深く感じることのできる訪問だったと思います。メインは二日目の花の苗植え。何十人もの人が島に集まり、小さい子供から大きな大人まで協力して道の両脇に苗を植えました。初めて会った人たちと協力して作業を行うこと自体楽しかったし、終わった時にはみんな仲良く笑い合える仲になっていてとても嬉しかったです。一部の人を除いて多くの人はゆっくりと島を散策したり、島の人たちと交流したりする時間はなかったと思うので、ぜひまた、島を訪れてほしいと思います。また運が良ければ、もう一度手島で再会し、一緒に島の魅力を堪能したいです。

自然を近くに感じられる「音」

谷垣 柚乃 さん
京都大学法学部2回生／東京都出身

手島で一番印象に残ったのは、音でした。鳥の声、虫の音、風にゆれる草木の音、これらを普段の生活ですべてを一度に意識することはなかなかないと思います。東京都心を人のテリトリー100％の状態と表現するなら、手島は自然が人の生活圏を飲み込みつつある状況という印象を受けました。私は終始その雰囲気に圧倒されがちだったのですが、島の人々はいつも明るく元気にさまざまな活動をしていらっしゃいました。自然との距離が近いことは普通のことだと思い出した滞在になりました。ありがとうございました。

静かだからこそ様々な音が耳に届く

多くの人が訪れてにぎやかに

岡田 紫苑 さん
京都大学農学部
食品生物科学科
2回生／京都府出身

来島者をアーチでお出迎え

初めての手島訪問は、新たな学びが多くありました。たくさんの緑に囲まれ、島の方々と交流ができたことは貴重な経験となりました。人口が減りお年寄りが多くなっている現状を良くしていくにはまだまだ問題が山積みだと感じました。手島を「花と昆虫の楽園」にすることによって、観光客の皆さんが手島にいらっしゃることには繋がると思うのですが、そこから今度は住んでくださる方がどうやったら生まれるかということを考えなければならないと思います。私は実際に訪れてみて、手島の魅力を味わうことができました。お花を植えた日には島外から多くの方がいらしてくださり島がにぎやかになって本当に嬉しかったです。これからも私たちにできることは何かということを考えていきたいと思います。

咲いた花を見に、また手島へ

今中 章乃 さん
丸亀市立小手島小学校5年生

私は、4月29日に手島で花植えをしました。花植えをする前は、どんな花を植えるのかな、たくさんの花を植えたいな、とわくわくしていました。まず、キンセンカを植えました。オレンジ色の太陽のような花で、元気になるなと思いました。次に芝桜を植えました。芝桜は、ピンクの花が咲くと聞き、見てみたいなと思いました。最後にラベンダーを植えました。紫色の花で、心を落ち着かせてくれるような花でした。たくさん植えるのは大変だったけれど、手島で仲良くなった友達と話をしながらしたので楽しかったです。後から、全部で2000本植えたと聞き、たくさんの方と協力して植えるとあっという間だなと思いました。また、花がきれいに咲いているところを見に、手島に行きたいです。

目にも楽しいラベンダーの色

自然の魅力が詰まった場所に

水澤 愛 氏
丸亀市立小手島小学校 教諭

今回、「花と昆虫の楽園キャンペーン」に参加し、念願の手島を訪れることができました。そして、バーベキューや花植えをする中で、島の方や参加者の方と交流することができ、本当に楽しく、充実した時間となりました。手島と言えば、「ひまわり」のイメージが強いですが、キンセンカ・芝桜・ラベンダーの花が加わり、さらに自然の魅力がいっぱい詰まった場所になったと思います。この素敵なフラワーロードをたくさんの方に知ってもらい、手島を訪れる人が増えてほしいと思います。また、児童とのこれからの学習にも生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

鮮やかなキンセンカ

花でいっぱいになっていく島

竹田 雛子 氏
丸亀市立小手島小学校 養護教諭

「花と昆虫の楽園キャンペーン」に参加させていただきありがとうございました。お天気も良く、青空の下でほかの参加者の方々と交流しながらの植樹体験は、とても充実した時間を過ごすことができました。お昼には、手島でとれた筍や果物、竹を使った流しうどんをいただき、手島ならではの食事を楽しむことができました。キンセンカ、芝桜、ラベンダーの3種類の花々はそれぞれとても良い香りで、島が花でいっぱいになっていくのを感じることができました。オレンジや紫の花で彩られていく道路は、澄み渡る青空と手島の自然豊かな緑に囲まれ、とても美しく輝いて見えました。これからも、自然豊かな手島で色とりどりの花がきれいに咲き続けることを願っています。

大勢の知恵と力を結集して

東 由美 氏
丸亀市在住

手島には、どこか懐かしいような心が癒される風景がたくさんある。そして島の人たちは高齢にもかかわらず元気で明るく、訪ねると逆に元気を頂く。そうは言っても高齢化率が90％を超えるこの島の先行きが心配でならない。

島で生まれた竹チップを肥料に

今回このプロジェクトを聞いた時すぐに関わりたいと思った。一人では微力でも大勢が集まると知恵も働き力も結集できる。京大生、丸亀養護学校生徒、島民、ボランティア、スポンサー企業、行政等が協力して素敵なフラワーロードができた。さらに人の繋がりの広がりと島の魅力を体感する人の増加がこのプロジェクトの成果でもあると思う。

花のその後を見るために再訪したい

安田 聡志 氏
外務省事務官

手島の住民の方々からの言葉で印象的だったのは、「別に観光地にはなりたくない。このままの島の良さを守りたい（強いて言えば空き家は気になる）」というものでした。また、「一番の希望は移住してきてもらうこと」とも言われました。他方で、日本全体で人口減少・高齢化が進む中で、目立った産業のない手島での暮らしは、このままでは遠からず限界を迎えてしまいます。その危機感が共有されているからこそ、島の方々にとってはともすれば面倒臭いと思われかねない今回のようなプロジェクトが実現できたのだと感じます。何度も島を訪問され、島の方々の意見を聞き、今回のプロジェクトの実現に漕ぎ着けた尾崎さんのご努力には敬服致します。（そして、私自身にとっても大いに刺激・参考になります。）他方で、今回のプロジェクトが一回限りの「打ち上げ花火」に終わってしまっては意味がなく、島の賑わいを取り戻すためには、私自身も含めて参加者のオーナーシップが必要だと強く感じています。その点、花を植えるという体験を共有することで、手島が参加者それぞれにとって特別な意味を持つようになり、自分たちの植えた花のその後を見るために再訪しようと思えるようになる今回のプロジェクトは意義深いものだったと思います。今回、丸亀市内や隣の広島や小手島に住んでいても、手島に初めて訪問される方が相当数いらっしゃることに驚きました。やはり東京からだと物理的距離がある中で、いかにこうした方々を巻き込んでいくかが重要なのだろうと思います。

もっともっと自然でいっぱいの島に

倉田 愛理 さん／愛菜 さん
宇多津町立宇多津北小学校4年生／2年生

4月29日お父さんやお母さんといっしょに船で手島に行きました。お昼ごはんには「竹のながしうどん」の手伝いをしました。みんなとてもよろこんでくれました。そして、みんなで黄色い花キンセンカを植えました。海では大きなクラゲを見ておどろきました。いろんな色をして鮮やかできれいでした。次はひまわりの種まきをして、そのひまわりが咲いたら写真をとりたいです。島のスイカをしぼって作ってくれたスイカジュースがまたのみたいです。手島をもっともっと自然でいっぱいにしたいです。

昼食の流しうどんは子どもに大人気

子どもたちが楽しむ姿が印象的

三好 祥章 氏
丸亀市本島正覚院 副住職

なんといっても今回は、参加した子供たちが楽しんでいるなと感じられたことが強く印象に残っています。また、総勢90名にもなった参加者は単純に数という点から見ても大成功だったのではないでしょうか。個人的には、隣の小手島から島唯一の小学生でもある、今中章乃ちゃんが来てくれたことはうれしかったです。今後先を見据えた上でも、彼女が体験したこと、人との出会いというのはいいご縁が結ばれたと感じます。当日の食材調達の為にタケノコ掘りも経験しましたが、手島の竹林は人が出入りしやすいようにしっかり整備されており、今回は残念な

旬のタケノコ掘りにも挑戦

がら時間の都合上経験できなかった参加者の皆さんにも、次回はぜひ鍬を手にタケノコを掘り出してもらいたいと思いました。

花以上に綺麗な島の人たちの心

大鹿 文明 氏
東京大学客員教授

二度目の手島。改めて素敵な島だと強く感じました。老体にはきつい苗植えでしたが、皆で植えた花が行列を作った様は感激でした。島の人達の心も花以上に綺麗。いずれ、訪れる多くの人達を魅了する楽園になることが楽しみです。オルラヤという花も、耐寒性1年草ですが、こぼれ種でどんどん増え、翌年も咲き続けます。清楚な島にお勧めかな。

「もう一度来たくなる仕掛け」を施す

荒井 理宏 氏
香川県交流推進部県産品振興課 副主幹

美しい砂浜でのクラゲの観察、カブトムシの幼虫探し、そして流しうどん。地方のまちに暮らす子どもたちでも、なかなか体験することができないプログラムの数々を今回、手島で体験することができました。実際に出かけるまで腰の重かった息子も大はしゃぎ！人見知りの我が子もいつの間にか島民の方と仲良くなっていて、「乗せて！」と軽トラの助手席を独占していました。人口減少、少子高齢化、空き家や耕作放棄地や放置竹林の増加――地方や離島が同様に抱える課題について、この手島のプロジェクトは一定の「道筋」を示してくれているのではないかと感じます。まず、大きな「交流」を生み出していること。居住地も、年代も、職業も異なる人々が、尾崎さんのチカラでつながった――本当にすごいことだと思います。今回、北海道から手島に移住された方とお話することができました。「観光地化されていないこと」、これが移住の決め手となったそうです。便利な店舗や施設は確かにないものの、だからこそ、その豊かさに気づかされるのかもしれないと感じました。そして、地域の資源のみならず、廃校や放置竹林などを活用しているということ。香川本鷹のカレーライス、タケノコの天ぷらは絶品だったし、何より、伐採した竹は流しうどんに活用され、チップの山にはカブトムシの幼虫が育っている。日常生活では味わえない驚きと感動を久しぶりに感じました。このプロジェクトのおもしろいところは、必ず「もう一度来たくなる仕掛け」が施されていること。今回植栽された花はどのように成長するだろうか、次はカブトムシの成虫には出会えるだろうか、あの美しい海岸では今度は何が見つかるだろうか。そんな“ワクワク”を胸に、また息子と共に訪れてみたいと思っています。お声がけいただいた尾崎さん、本当にありがとうございました！

京大生考案の香川本鷹カレーは絶品

フェリーから手を振って別れる

豊満でみずみずしい自然と人情

広谷 鏡子 氏
作家／丸亀市広島出身

フェリーから島の全景を眺めて思いました。昨年夏の報告にも書いたとおり、この島は上から見ても、横から見ても、サングラス（というか、ブラジャー）でした。まったくもって変な意味じゃなく、豊満でみずみずしい自然と人情が島全体を包み、「母」に抱かれる思いがします。そういえばラテン語圏では「島」は女性名詞でした。元来、島の子のくせに、土いじりも筍掘りもできない軟弱な人間なので、きっと手島の魅力のごく一部しか味わえていないのでしょうが、それでもこの奇跡の島は「胸いっぱいの愛」を惜しみなく降り注いでくれます。また、次の季節の到来を待っています。

「第三者以上・島民未満」を巻き込む

尾﨑 純 氏
一般社団法人共同通信社 福岡支社編集部 記者

私にとって、大学院卒業後はじめて参加する塩飽部隊プロジェクトでした。卒業してからも温かく迎えてくれる美恵さん、京大の後輩たち、そして島の人たちに感謝します。今回はいつもと違い、ゴールデンウィークを利用して

家族連れも楽しめる島

県内をはじめ遠くは千葉県まで、大勢の家族連れが参加してくれました。中には、昔お爺ちゃんが手島の護岸工事に関わったのをご縁に、と三世代で参加されたご家族も。「手島はたくさんの人たちのお世話になってきたのだなぁ」と、その心遣いの歴史に感じ入ると同時に、「ならば島の当事者はたくさんいるのでは」とも思いました。島の人口となれば、20名すれすれという限界状況でも、「当事者人口」を考えれば、まだまだ限界とは言えないのでは。全国各地に散る「第三者以上・島民未満」の人たちをいかに巻き込んでいけるかが、今後の鍵かもしれません。

コンパクトなコミュニティでの語らい

玉井 貴大 氏
株式会社三菱ケミカル株式会社

今回手島では、これまで経験したことのない島ならではの空気を肌で感じられるのではと期待して参加しました。実際に1泊2日を過ごして、特に心に残っているのは1日目の夜とタケノコ掘りです。1日目の夜は吉田さんのお宅で島に関わる方々と集まって語らい、こんなコンパクトなコミュニティーいいなと思いました。翌日のタケノコ掘りでは自分の食べるものは自分で調達する、自給自足の一端を体感しました。今回来てみて、ぜひ子どもたちにこんな環境を経験してほしいと思いました。漁や畑仕事など他にもお手伝いできることがあれば体験がてらしてみたいです。島にお花が増えていく様子を見に、楽しい晩餐に参加しに、島のまた違う顔を探しに、またお邪魔したいと感じました。ありがとうございました。

自分で掘ったタケノコを調理して食べる

塩飽諸島他地域への広がりを期待

大西 紘司 氏
百十四銀行

2回目の春を迎えた四国夢中人の手島での活動は、これまでよりも参加される方が大幅に増え、顔ぶれも多様性が増していたように思う。その参加者達が一堂に会して食事をした、4月29日の昼食が、私としては最も印象深いものだった。この日は100人に近い人達が島に来ることとなっており、迎え入れる側の一人として、いったいどれくらいの量の食事を用意すれば良いのか見当もつかず、なかば成り行き任せで臨んだところもあったのだが、いざ蓋を開けてみれば何の問題もなく、手伝いに来ていただいた島内・島外の「プロの主婦」のお姉さま方を中心に、素早く、大量に、おいしい島で採れた竹の子の天ぷらや、おにぎり、流しうどん、さらには島で採れた魚をさばいていただき、立派な食事を用意していただいた上に、食事の前に後片付けまで全て終わらせていただき深い感動があった。また、できあがった食事をキャンプ場に持っていったところ、そこでも、これまでには見たことのなかった屋外用の椅子や机が大量に用意されていて、こんなものがここにあったのか、という驚きもあった。このように、また新たなステージへと突入した手島でのプロジェクトであるが、始まった当初はぼんやりとして輪郭がはっきりしていない活動であったが、薄い絵の具でも何回も塗り重ねることで少しずつはっきりしてくるように、少しずつその形ができてきているように感じている。この活動がさらに色を重ねていき、そして手島のみならず、いつかは他の塩飽諸島の島にも広がっていくところを、これからも見守り続けたいと思う。

元小学校の給食室では女性陣が大活躍

Everyone was extremely warm and welcoming (皆がとてもあたたかく友好的)

Ian Lus 氏
香川県立高校英語講師／You Tuber

The end of April is a delightful season in Kagawa, Japan. The surrounding hills are freshly painted

in lush spring growth, the days are comfortably warm and bathed in ample sunshine, and the surrounding farms and once again green with life. On April 28th and 29th I was fortunate enough to find myself taking part in a community flower planting event on the island of Teshima. Nestled between the prefectures of Kagawa and Okayama in the beautiful Seto Sea, this is a seldom explored area of Japan by both tourists and locals alike. Despite this, in my five years in Japan Teshima is among the most enjoyable places that I have visited. I thoroughly enjoyed every minute of this engaging experience. First and foremost, everyone taking part in this event was extremely warm and welcoming. They brought a great sense of joy to every activity that we took part in and embarrassed the full feeling of community that is found on Teshima. From picking bamboo shoots on this hillside to preparing a generous BBQ for 80 hungry visitors, which is four times the island's population, there was never a dull moment. Even when I did find myself with a free minute or two, one could simply relax and soak in the splendid surrounding scenery. For such a small island I was surprised at how many delightful spots there were to explore, particularly along the seaside with its crystal clear waters. On the second day, after the delicious BBQ, it was time for the main event, planting the flours. Within hours, through the use of teamwork, thousands of flowers had been planted throughout the heart of the island, bringing the main road to life. With the sun beating down and their hands caked in soil, everyone was exhausted by the end of the day, but it was a labour of love and they had an even greater feeling of satisfaction. I am very grateful to have taken part in this event and I hope to experience Teshima again in the near future.

涙が出るほどのうれしさ

藤原 当正 氏
手島自治会長

多くの人がこの手島に集まってくれて涙が出るほどうれしいです。御先祖さんもこの光景を空から眺め、きっと喜んでいると思います。皆さんの力を借りて、活性化に向け、一年一年頑張りたいです。皆さんのパワー、宜しくお願いいたします。

キンセンカの前で集合写真